

洋書輸入協会会報

VOL. 9
NO. 2

(通巻94号) 昭和50年2月

理事会報告

1月27日(月)

- (一) 文化厚生委員会(洋販渡辺氏)から1月9日の本協会新年宴会につき、出席者169名(うち有料100名)をみて盛会であった旨の報告あり。
- (二) 理事会の運営についての丹羽理事(関西支部)からの要請について討論。重要議題は必ず事前に連絡することとなる。
- (三) 内外の諸情勢につき討論。
- (四) その他。

ダイレクトリー委員会だより

DIRECTORY 1975の資料が昨年末ほほととのい、編集委員会が12月16日と1月21日に開かれ、3月末発行の予定で作業が順調に進められています。

新年懇親会

恒例の新年懇親会は1月9日(木)丸の内プレスクラブで催された。司会の文化厚生委員長渡辺洋販社長より、参会者が年々増加し、この日の参会者は170名に達した、と発表された。

理事長あいさつのなかで、飯泉丸善社長は「明けましてお目出とうというあいさつには未来への明るい展望の意味が含まれているが、昨年は全く苦悩にみちた一年であった。これは私の50年の体験で初めてのことであり」と苦しかった一年を回顧し、「深刻な不況のなかで、悲観ばかりもしておれない。困難をどう克服するか、皆の知恵をどう集約するか、業界の共通の利益をどのように守るかという問題を提起したい」と強調された。

つづいて、外国からのお客、コリンズのピーター・ハンソン、トニー・フィリップス両氏の紹介がおこなわれたあと、このほど日本に帰化された Japan English Service の吉原氏(アルバート D. ロジャー氏)の音頭で乾杯をおこない、歓談に入った。苦悩に暮れ、灰色に明けたきびしい経済環境のなかでありながら、場内は明るい雰囲気包まれ、熱気さえこもり、困難に立ち向う業界指導者たちの心意気がうかがわれた。紀伊國屋書店相良氏も閉会のあいさつのなかで「共通の利益を守り、目標は高くかけて進もう」と呼びかけた。

さいごに、三洋出版鈴木社長の音頭で手始めをおこない散会した。

(東光堂書店・川越記)

理事会報告..... 1	食品開発こぼれ話 白石昌美..... 3	ニュース..... 6
ダイレクトリー委員会..... 1	Book Review No. 22..... 4	通関統計..... 6
新年懇親会..... 1	外国出版社の紹介 No. 35 5 (VANDENHOECK & RUPRECHT GÖTTINGEN)	総代理店ご案内..... 6
マドリードの二日間 水田正治... 2	海外ニュース..... 5	会員の横顔...三省堂・野村知成... 7
		広告 (Horizont) 8

マドリードの二日間

—— 第6回国際書籍展視察団に参加して ——

三洋出版貿易株式会社 水 田 正 治

この視察旅行における訪問6ヶ国のうち、観光を目的に大いにパカンスを楽しもうと期待していたのがこのスペインである。初冬を思わせる寒さのロンドンから空路で3時間、マドリードの空はあくまで青く、まぶしい太陽が輝き、南国スペインに来たと実感された。10月5日午後2時、バラハス空港到着。通関後、空港から市内までバスで約30分近代的なアパート群も見うけられ、古い伝統的なものとが混在しているのが印象的だ。目抜き通りの店々は閉っており、これは昼休みのためだという。スペインでは午後1時半から4時半ごろまでオフィス・商店の全てが店を閉め、サラリーマンもその間に家に帰り、時間をかけて昼食をとったり、暑さを避けて昼寝をするのが習慣とのこと、あわただしくもりそばやラーメンで昼食をすませる日本のサラリーマンから見ればうらやましいかぎりだ。午後4時に昼食を庶民的なレストラン Les Descalzas で、スペインの名物料理バリエラを食べる。これは貝、えび、鳥肉、野菜をオリーブ油で煮つめ、サフランで黄色くしあげたスペイン風たき込みご飯といったもので、貝がらでご飯の中にまじっていて、初めてのことで驚く。その時、日本でいえば流しのようなツナと呼ばれる人達が入ってきて、「グラナダ」など10曲ちかくいい声で聞かせてくれる。リズムも声量もすばらしく、日本の「上を向いて歩こう」などもスペイン風にアレンジされたものもあり楽しかった。

つぎの観光コースのブラード美術館は、閉館間際でエル・グレコなど必見の名画も見ることができず残念だった。最後に王宮に行く。その豪華さには驚かされた。スペイン王室が15—16世紀頃いかに世界に君臨し、その権勢をほこっていたかが納得できた。スペイン内乱時の弾痕が一部に残ってはいるが、ほとんど破壊されておらず、フランコ将軍の死後、再び王室に返還されるようだ。午後9時から約1時間、スペイン流にゆっくりと夕食をホテルですませ、11時頃よりフラメンコを見に Tablao, El Coral de Lapacheca に行く。舞台中央に男性ギタリストがおり、その左右に3〜4人づつ踊り子が座っている。だんだんに激しくなっていく手拍子に合わせて、一人づつ前に出て踊り出す。観光客向けの店らしく、リズムもテンポも踊りも快調で、その点では約2時間、充分に楽しめた。だが、土着的な匂いというか、ジブシーの踊りとして想像していたような野性味が欠けていたように思った。

翌10月6日、朝9時ホテルを出発、トレドに向う。トレドについては写真で一部見知っていた程度で、予備知識はほとんどなかった。バスで20分ほど走ると、そこは広漠とした赤土の大地が広がっている。麦の刈入れも終わっておりところどころにオリーブの林が見えるだけだ。マドリードから約1時間、一直線にのびた道の前方に突然現われるのがトレドで、町全体が遺跡のようだ。三方をタホ川にかこまれた丘の上にあり、赤土の荒野の中に幻のように残っている。迷路のように曲がりくねった坂道とそれをはさんで茶色の厚壁に小さな窓の民家が続いている。家々には今も人々が生活し、しかも貧しくはない。7世紀頃から千年余りも栄え、15世紀にはスペインの首府もおかれたことがあるという。古代や中世人の魂が今もそこにあるような風景が随所に見られる。エル・グレコや有名な画家たちが、ここを画題に選んだこともうなずける。大寺院ではその荘重さにうたれ、また日曜日のことで町中を自由に走りまわっている子供達の姿や笑顔に、世界共通のほほえましさを感じた。

トレド近くに残る名産の彫金細工工場では日本語や日本円が通用し、また昼食に寄ったレストランでは、給仕が「セイコー」といって時計を見せ、「コウチャ」といって紅茶を持って来るなど、日本人観光客がいかに多くここを訪れて来ているかがわかる。

マドリードにもどり闘牛場に行く。闘牛があるのは日曜のみとのこと、運よく観ることができた。4時半から約2時間、6頭の牛が殺される。1頭約20分のショーである。元気に入場してきた牛も、馬上の闘牛士の槍にさされ、傷つけられ、最後には首に剣をさされて倒れる。残酷さが目立ち、私には期待はずれだった。二流の闘牛士のために盛上らないのだということだったが、ヘミングウェイの「真昼の死」にみられるような、儀式であり芸術であるといったその魂が感じられなかった。しかしスペインでは今も一流の闘牛士はすごい人気だということだ。でも同じ時、10万人が入るサッカー場では、大試合のため超満員で、その周辺や放射状にのびている道路には、遠くまで道の両側ばかりでなく、道路の中央に3列に駐車してあるのが印象的で、闘牛場の人出の少なさと対比的に思えてしかたなかった。マドリードの休日は、私にとって充実した楽しい二日間でした。

食 品 開 発 こ ぼ れ 話

技 術 士 (農 業 部 門) 白 石 昌 美

☆肩のこらない話

最近ストレスも多いためか原因不明で肩がこって困っている人が多い、中年以上の人に多いようだが若い人でも案外に多くなっている。原因は視力の乱用や消化器病、中にはスポーツのやりすぎやトランプや花札のやりすぎなど色々ある、もっとも何となくという人もあって、このためサウナやマッサージが大繁盛だという。

しかし、どうにもならない時に用いると良い妙薬がある。それは俗に牛ぶどうと呼ばれる植物の皮を煎じてエキスを盃で2〜3杯毎晩のむことで足る、1ヶ月も続けると大抵の人が肩こりを忘れてしまう。

学名は *Schisandra nigra Maxim* (和名モクレン科マブサ、つるを松藤ともいう、この植物の親類に漢方でいう五味子(正しくは北五味子)がある。

この植物、東海、中部以北の本州で広く野生している、つるの切口の臭気が松に似るのと秋に赤紫黒のぶどう様の実をつけるので、秋が採取に適する。

実の果肉から紫黒色の果汁(甘ずっぱい)がとれ、醗酵させると強精酒が出来る。

果汁自体も体を温めるとして老衰を回復するとの俗説があり、ぶどう汁と外見が似て風味が異なるので食品原料として商品開発に試験中。私の方では大量栽培を計画することも考えているが野生のものは今の所、秋のピクニックの時に採取する位である。肩こりにはつるの皮に目方で5倍の水を加え煮つめて目方で1倍の液としたものが効く。

☆しいたけエキスの効果

自然食品ブームに乗ってシイタケがよく売れているが、最近シイタケエキスと称する漢方薬まがいの妙な商品が高価に取引されているのが気になる。

シイタケは20年位の栗、しい、くぬぎなどの木質部に菌糸を植えてつくるもので緑の山林を崩す原因となるので、早くから代用材の研究が進んで来た、エノキのように鋸屑に糠を混ぜたものを圧縮して、それでも育つことは戦後まもなく未利用資源の活用方法として農村工業の指導当時に日本や米国の雑誌などに紹介し、私は公知となったとしていた。

これが妙なことに最近になって特許になっているのだから面白い、25年経ると公知が新発明となる、審査官の怠慢かもしれないしコンピューターの故障かもしれない。

この原理で木質は南洋材でも、竹でも、すすきでも良く、さとうきびなどは上等の材料で、糖蔗粕が最も経済的だといえるようになった、このため日本のシイタケ栽培はカナダ、米国、インドネシア、南米と世界各地で新企業とされている。

シイタケの有効成分にアミノ酸の一種であるエリダデニンとビタミンD₂とがある、共にシイタケを日光にあてると含有量が増える(日光にあてないとビタミンDは存在するがD₂は出来ない)、要するに生シイタケ、干シイタケを問わず買い求めたら先づ日光にさらすことで価値が変わる。

もっとも、シイタケの広告にミシガン大学の先生の制ガン剤含有説があるが調べて見ると確認されたものではない。またシイタケ菌は米(玄米がよい)により育つが、この場合はビタミンD₂だけしか確認されない。

なおシイタケ中のビタミンD₂は油にとけ、水抽出では普通は駄目、またシイタケ中には人体に有毒なホルマリンが比較的多量に入っているため大量に食べることは疑問視する向きがあるが、ホルマリンは水抽出でも出て来るので、市販のシイタケ・エキスは抽出方法を公開しないと、本当に健康食品かどうか不明ということになる。

☆肝臓にいい酒、悪い酒

酒がとても飲みたいのに肝臓に悪いからとか、高血圧に悪いとかいって医者から禁止されてペンをかいている人が案外多いときく、また洋酒について色々調べていると肝臓病や明らかに腎臓病をなおす酒という話にぶつかる、リキュールは薬用酒が多いので理由がわかるが、ブドー酒やスピリット類にそうした記述があり、また驚くなかれ、酒を飲む医者の数は飲まない医者の20倍を上廻ることもスウェーデンの損保会社の調査などで示されている。全く不公平であるし、不公正な表現とも上戸には考えられよう。

此のような事情を科学的に確めるために(他にも有機化合物で異なる研究者により異った毒性値が記録されたり、環境条件によって異なった反応速度、感覚的性格が記録されているものがあり)米国のジェフアーソン医大、パリ大学の友人達と私達のグループで色々な協同研究をしているが、最近になってエチルアルコールの電気的多重結合(6分子位まで)をつくることに成功した結果、この場合のエチルアルコールの毒性値が脂肪に近いことが判って来た、これは天然の酒では充分な良い熟成という表現でいわれている。

そのことからブドー酒で3年以上のもの、ウイスキー、ブランデーで15年以上のもの、日本酒も5年以上のものである含有アルコールの結合状態が3〜4分子の結合と思われる分析結果が出て、これらはアルコールを飲むのではなく脂肪を飲むに近いと思われる(動物の血中より電重結合の分子重量のアルコールの抽出データより)、これが肝硬変と診断されながら、斗酒を飲み大して病気が進まず一部の医師を悩ませている正体らしい。この場合にアルコールの含有

率が少なく、蛋白質や糖質の含有の多い酒ほど電重結合が安定している。逆にアルコール度の高いもの、純アルコールを添加したものでは不安定である。

これから推察すると熟成したブドー酒や日本酒が良く、合成酒や蒸留酒は危険といえるようであるし、リキユール

に健康保持に役立つものがある理由も判る。また最近日本の食品界で合成保存料を用いず代りにアルコールを加えている高級みそ、高級醤油、漬けもの、高級洋菓子の類は、消費者が購入の時調べないで病人にとっては危険が一杯ということになりそうである。

BOOK REVIEW No. 22

J・W トムプソン 著 箕輪成男 訳

出版産業の起源と発達

—フランクフルト・ブックフェアの歴史—

1974年 出版同人社 1,500円

フランクフルト・ブックフェアは我々協会々員にとって、いや全世界のブックビジネスに携わる者にとって、見逃し得ない大きな行事となっている。本書はそのフェアの歴史を紹介して、ユニークな本の歴史の一面を我々に提供してくれる。中世の碩学、アンリ・エチエンヌによって捧げられた、ブックフェアに対する讃辞とその解説として書かれたトムプソンのフランクフルトを中心としたドイツの出版産業の歴史とから成っているが、私には夫々興味と知識を与えてくれて、あらためて本と云うものに愛着を深めた次第であった。

エチエンヌの讃辞は、たしかにトムプソンの云うように、高遠な理想主義においてモアの「ユートピア」に及ばず、その論理と諷刺においてエラスムスの「平和を求めて」に、また歴史的学識においてグロチウスの「戦争と平和」に及ばないかもしれないが、ルネッサンスの、文芸を愛好する知識人達が、フランクフルトの市でどんなに知的な好奇心にかられて集り、本を渉猟し、知識を交換し、議論したかを生々しく伝えてくれている。フランクフルト・ブック・フェアに行く機会を未だ持たない私にとってはただ想像をかきたてる他に術を知らないが、例えば、今から二十年位前に、神田古本屋街に足を踏み入れた時のときめきを回想しては、エチエンヌとフランクフルトに失礼に当るであろうか。いづれにしろ、この讃辞は、中世からルネッサンスへ開いた、人間の知的な好奇心の昂まりを示して興味深く、これなしにこの本の魅力は半減してしまうであろう。その意味で訳出に当ってトムプソンの解説を先にしたのはうなずけぬ。

トムプソンの著述は解説と云うよりはむしろ真摯な研究とも云うべきもので、出版産業をその濫觴から近代の姿までよく把握、今日の我々が日常出合う諸問題、印税検閲、ベストセラー、版權、海賊版、献本等も要領よく扱っている。その中でも興味深いのは、十六世紀から十

八世紀にかけてのドイツでの出版点数と冊数の推定数字である（第三章）十六世紀に出版された本の数を十万点と聞くと、グーテンベルクの発明が一五世紀中葉であった事と考え合せて、出版と云うのは最初からマスプロを運命として背負われていたと云う感をまぬがれないと同時に人間の知的生産は比較的ゆっくりした歩調で開発されていったのだと云う事も教えてくれる。更に、この本が教えてくれる、当たり前であるが貴重な教訓は、ブックビジネスにとっての最大の敵は戦争であると云う事である。十七世紀の初頭、ドイツの書籍生産数はピークを迎えるが、続く三十年戦争によってその数は半減している、無残と云う他はない。宗教上の論争、人気タレント、オピニオンリーダーの出現が取扱量を増大せしめ、市を活気づけた事も、すでに云われている事であるが面白い。ルターの宗教改革とプロテスタント神学の著作が増加して行った事が、市の中心をフランクフルトからライプツヒに移して行ったと云う説明などは、知的論争が出版産業のパン種になっている点、今日でも変わらない事の様である。この観点から出版産業の将来を見るならば、我々にとっての理想的な社会的背景は、平和と真面目で且つ人々に容赦のない選択を迫る論争がある事と云う事になるであろうか。

訳者によって加筆された戦後のフランクフルト・ブック・フェアの姿は別の意味で示唆的である。フェアの持つインターナショナルな面は今後の洋書取扱業者の方向を示すものであり、出版産業は好むと好まざるとに拘らず、マスプロの圧力を下敷にして世界的規模のものに発展するであろう事を教えている。出版社と書籍販売業者との国際的な連携は様々な形で試みられるであろうし、狭いナショナリズムは克服されるべき時に来ていると見てよい。通信手段、流通経路、いづれをとってみても我々の周囲に変革の流れが押寄せている。おそらくフランクフルト・ブック・フェアは更に大規模に発展するであろう。世界の情勢がそれを要求している。この様なときに誠にタイムリーな企画でこの本が出版された事に敬意を表すとともに、協会の会員の皆様に一読をすすめた

窪田輝蔵



VANDENHOECK & RUPRECHT GÖTTINGEN

D-3400 Göttingen, Theterstrasse 13, Postfach 77.

西独北東部ハノーヴァー県の都市、ゲッティンゲンにはハンザ同盟の昔から古い歴史をもっているが、1737年に大学が開かれてから北ドイツの文化の中心都市となり現在にいたっている。

この地でオランダ人印刷業者アブラハム・ヴァンデンフーク (Abraham Vandenhoeck) (1700年ハーグに生まれる) が1735年2月13日に印刷所を設立した。しかし彼は1750年に、はやくも死去、寡婦となったアンナは印刷所を処分し、カール・フリードリッヒ・ギュンター・ルプレヒト (Carl Friedrich Günther Ruprecht) の援助を得て出版社と書店を営んでいる。このルプレヒトは1748年、18歳の時徒弟としてヴァンデンフークに入ってきてから、出版社を全盛時代に導いた程の実力者だった。これには啓蒙時代であった当時、ゲッティンゲンが時代の先頭をゆく大学であったということも、一枚加わ

っている。アンナは1787年子供を残さないまま亡くなり資産の大半は「大学寡婦孤児基金組合」(Universitätswitwen- und Weisenkasse) と改革派教会が受け

継いでいる。しかし、ルプレヒトはなおも出版社の業務を続けている。以後出版社の運命は大学の趨勢と軌を一にしている。大学は18世紀末全盛を誇り「ゲッティンゲンの7人」(Göttinger Sieben) が1837年に追放された後に一時下火となったが、そのあとまた復興している。このような幾多の変遷にもかかわらず、この出版社は現在にいたるまで、大学出版社としての使命を果している。1890年から20年間、言語学のほかに福音主義神学が隆盛をきわめ第二次世界大戦後は以前にあった他の専門の分野が再び発展しはじめている。現在では、ルプレヒト5代、6代目とその業務を引きつぎ、200年に及ぶ歴史を誇っている。

◎出版点数 年間200点 (そのうち3分の1は新版)。

◎刊行中の雑誌 各分野で20点以上。

(教文館・KW記)

海外 ニュース

『英国の出版点数減少』

The Bookseller 誌1月4日号に1974年の英国の出版統計が発表されている。これによると1974年の英国の総出版点数は32,194点で、このうち新刊は24,342点、重版ないし復刻版が7,852点である。

これまでの最高記録であった1973年の出版点数と比較すれば、総出版点数は前年の35,254点から3,060点減少、率にして8.7%の減少である。新刊書は1,356点、5.5%の減少にすぎないが、重版および復刻版は、1,704点、17.8%と大幅に落ち込んでいる。

1974年は、紙不足、エネルギー危機など多くの問題をかかえ、英国出版社にとっては苦難の年であったので、この程度の減少は当然と受け取られているようだ。

分野別に前年との増減を比較すれば次の通りである。

分野	1973年	1974年	増減
美術	1,084	1,130	+46
伝記	1,120	1,024	-96
化学・物理	809	679	-130
児童書	2,710	2,618	-92
商業	808	721	-87

教 育	1,046	908	-138
工 学	1,112	928	-184
小 説	4,145	4,154	+9
歴 史	1,478	1,193	-285
産 業	404	410	+6
法 律・行 政	1,000	893	-107
文 学	1,035	757	-278
医 学	1,550	1,466	-84
自 然 科 学	1,044	1,091	+47
政 治	2,935	2,412	-523
宗 教	1,272	1,011	-261
教 科 書	1,742	1,712	-30
社 会 学	836	757	-79
旅行・ガイド	731	580	-151

『アベル社その後』

図書館への供給業者として近年急速にのし上り、日本の市場にも進出をはかってきたアメリカの Richard Abel & Company が財務面で行きづまり、Follett 社に身売りすべく話が進められていることは先号でお伝えした。その後の Publishers Weekly 誌や The Bookseller 誌の報ずるところでは、Follett 社は Abel 社の財務面、営業面を綿密に調べ上げた結果、同社の再建には費用がかかりすぎるということで、この合併案をご破算にした。

1月中旬現在では、550万ドルの債権をもつ銀行 National Bank of Oregon が、すでに Abel 社を接収し、清算の手続きに入っている。なお、同銀行は、Follett 社に続いて Abel 社の資産の買い手を探しており、現在、英国の大書店 B. H. Blackwell と交渉中である。

(Publishers Weekly 1月6日号、The Bookseller
1月18日号より)

〔追記〕

その後の情報では、銀行と B. H. Blackwell, Ltd. の間で、Abel 社を買い取る交渉が成功し、契約にこぎつけた模様である。

B. H. Blackwell は Abel とその子会社の資産を買い取るとともに、Abel 社の主要スタッフを引き取り、新たに Blackwell America (仮称) を設立、これまでの Abel 社の事業を受け継ぐとのことである。但し、取扱う出版物はアメリカとカナダのものに限るなど、事業規模はかなり縮小する由。

新社は1975年3月1日から営業開始予定とのこと。

——紀伊國屋書店提供——

ニュース

- ☆スイス Office du Livre 社の Mr. Jean Hirschen 1月中旬来日。
- ☆英国 J. M. Dent 社の Managing Director, Mr. Piers Raymond 1月下旬来日。
- ☆米国 Columbia University in the City of New York の Mr. W. Olsen 1月下旬来日。
- ☆米国 Greenwood 社の Mr. Robert Hagelstein 2月上旬来日。
- ☆米国 W. B. Saunders 社の Mr. Jack Gramling 2月上旬来日。
- ☆米国 Consolidated Book Publishers 社の Mr. E. F. Nielsen 2月下旬来日。

通関統計

外国貿易概況 (大蔵省関税局編、日本関税協会発行)
1974年10月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和49年10月	\$8,880,000	1月以降累計	\$70,362,000
昭和48年10月	\$5,466,000	〃	\$54,925,000

(註) この統計は、CIF 価格で10万円以下の少額貨物は含まれない。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。
お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 (株) ☎ 272-7211

The Merck Veterinary Manual. A Handbook of
Diagnosis and Therapy for the Veterinarian.
Ed. by O. H. Siegmund and others. 4th ed.
'73. (Merck & Co.) ¥4,900

Cohen, S. N. & M. F. Armstrong.- Drug Interactions.:
A Handbook for clinical use. '74.
(Williams & Wilkins) ¥6,100

B. B. A. Library Series. All volumes.
Vol. 1-13 published. (Vol. 9 out of print)

(株) 南 江 堂 ☎ 811-7234

Blackwell Scient. Publ. Ltd.

Blood and its Disorders. Edited by Hardisty, R. M.
1974 1,540 pp. with illus. 2月入荷予定 ¥21,560

The Butterworths

Paediatric Nephrology. by White, R. H. R.
1975 ca. 230 pp. with illus. in prep.

Surgery of the Gall Bladder and Bile Ducts.
by Sherlock, S. 2nd ed. 1975 ca. 384 pp.
with illus. in prep.

Churchill/Livingstone

The Arteries and Veins of the Human Spinal
Cord from Birth. by Dommissie, G. F.
1974 120 pp. ¥7,920

Grune & Stratton

Damshek's Leukemia. by Gunz, F.
3rd ed. 1974 841 pp. with illus. 3月入荷予定
¥13,870

Lea & Febiger

Cardiac Catheterization and Angiography.
by Grossman 1974 339 pp. 152 illus. ¥9,060

Atlas of Human Histology. by Di Fiore, M. S. H.
4th ed. 1974 252 pp. 114 original color plates
4月入荷予定 ¥5,180

J. B. Lippincott Company

Radiology of Bone Diseases. by Greenfield, G. B.
2nd ed. 1975 ca. 640 pp. ca. 1,250 illus.
5月入荷予定 ca. ¥18,500

Histology of the Skin. by Lever, W. F.
5th ed. 1975 ca. 900 pp. ca. 439 illus. in prep.
8月入荷予定

C. V. Mosby Company

Diagnostic Ultrasound. by King, D. L.
1974 311 pp. 172 illus. 2月入荷予定 ¥15,720

Radiology of the Skull and Brain, Vol. 2 -
Angiography (in 4 books)
Edited by Newton, T. H. & D. G. Potts
1974 ca. 2100 pp. ca. 3891 illus. 3月入荷予定
(set price) ¥77,700

Munksgaard

Alfred Benzon Symposium, VI - Regulation of
Hepatic Metabolism. 1974 832 pp. ¥22,120

Alfred Benzon Symposium, VII - Secretory
Mechanisms of Exocrine Glands. 1974 ca. 700 pp.
4 月入荷予定 ca. ¥18,000

North-Holland

Progress in Immunology, II (in 5 vols.)
Edited by Brent 1974 1,984 pp. with illus.
(set price) ¥39,870

Springer-Verlag

The Superficial Veins of the Human Brain.
by Duvernoy, H. M. 1974 ca. 1,200 pp. 66 fig.
2 月入荷予定 ¥13,200

Atlas of Gross Neurosurgical Pathology.
by Zülch, K. J. 1974 320 pp. 379 fig.
2 月入荷予定 ¥18,000

Thieme, St.

Salivary Glands and Facial Nerve. by Conley
1975 ca. 328 pp. 633 illus. 4 月入荷予定
ca. ¥21,000

Williams & Wilkins Company

Bergey's Manual of Determinative Bacteriology.
by Buchanan, R. E. 8th ed. 1974 1,272 pp.
50 illus. ¥16,650

Year Book Medical Pub.

Modern Perinatal Medicine. by Gluck 1975 in prep.
Year Book of Neurology and Neurosurgery, 1975.
1975 ca. 550 pp. 4 月入荷予定 ca. ¥7,200
Year Book of Pediatrics, 1975.
1975 ca. 460 pp. 4 月入荷予定 ca. ¥6,500

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262-5278

M. Born & E. Wolf, - Principles of Optics:
Electromagnetic Theory of Propagation,
Interference and Diffraction of Light, 5th Edition,
(Pergamon Press) 836 pp, 338 illus.

1 月刊行予定 ¥8,320

James Joyce ULYSSES: A Facsimile of the Manuscript
With a critical introduction by Harry Levin and
a bibliographical preface by Clive E. Driver.
(Octagon Books) 全3巻函入り 番号入り限定版
1975年1月刊行 揃特價 ¥51,800

(株) U. S. エシァティック カンパニー ☎ 502-6471

Princeton Microfilm Corporation. Alexander Road,
Princeton, New Jersey 08540 U. S. A.
All Publications

会員の横顔

三省堂書店

野村 知成

「すざらん通り」の三省堂書店アネックスに野村さんをお訪ねする。別館とか新館とかいうと、ホテルや旅館みたいだから、というわけではあるまいが、この頃はこういう呼び方が流行するらしい。

しかし、白いホッソリしたこの建物は、いかにもそうした新しい呼び名にふさわしく、70年代の神田書店街のあり方を示すものとも云えるであらう。

野村さんの名前は「サトシ」と読む。お父上が先に名の音を決められて、後から字を宛てられたとのことだが、御当人はこれが為にいろいろと苦勞をされたらしい。「どっちが、サで、どっちがトシなんですか？」といったって無學な質問をしたら、「自分でも良く判らないから、カナをふるときは二つの字の中間にトがくるようにしています。」との御返事に思はず吹き出してしまった。昭和10年、岐阜県の生れ。野村さんの口を借りれば、「目白にあるつまらない大学」一学習院大を33年に卒えて、すぐ三省堂書店に入社。始めの三年程は和書の理工学書に接していたが、間もなく洋書に転じてはや十数年が経過したことになる。

音楽、それもクラシックが趣味で、学生の頃は大学の合唱団に所属。五年生と一年生の男のお子さん二人の父親となった今日でも、音楽との縁は切れないようである。1973年、協会のフランクフルト視察団に参加した時も、時間さえあれば恐らくあちらこちらのコンサートを聴きたかったことであらうと想像するのだが、忠実な会報委のメンバーとして「ペンギン・ブックス訪問記」などを書かれ、その暇がなかったらしいのは、お気の毒という他はない。

昨年11月末、出版社三省堂の倒産騒ぎが新聞に報じられた日、協会の懇談会の席上で野村さんは、同社と三省堂書店が全く別の会社であることを説明されたが、その簡にして要を得た説明には感心された方も多いのではないと思う。「さとし」と名づけ、それに「知成」の文字を配した父上は、やはり先見の明があったといえるであらう。

(自宅：千葉県鎌谷市道野辺 325 グリーンハイツ、36-205) K.S 記





„horizont“ is published in German by the Berliner Verlag in Berlin, capital of the German Democratic Republic.

The annual subscription is ¥11,700.

If you wish to see a sample copy, please fill in the form below and send it to the Berliner Verlag, 1056 Berlin, Karl-Liebknecht-Str. 29.

If you wish to take out a subscription, send the form to Far Eastern Booksellers, Kanda P. O. B. 72, Tokyo.

horizont

socialist weekly from the GDR
on international politics and economy

**gives you
the information
you need!**

horizont

Every week „horizont“ will bring you 32 pages of exclusive reports by outstanding authors from all over the world, interviews, portraits and memoirs of well-known international figures, analyses of world events and world economy, interesting reports from all continents.

With „horizont“ we offer you a valuable source of information on GDR foreign policy and current events throughout the world.

☐ Please send me a free sample copy of „horizont“

☐ I wish to subscribe to „horizont“
(Mark the appropriate line with a cross)

Name, Given Name

Street, House Nr.

Postal Nr., Town

昭和50年 2月 通巻第94号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329